Jリーグ規格スタジアム整備基礎調査

《概要版》

平成24年3月

沖縄県

サッカースタジアム整備の位置づけ

サッカー文化の確立

スポーツの起源は古く、人類が誕生した直後から、祭事や遊戯として営まれてきました。この中では日本の“蹴鞠”やイタリアでの“カルチョ”など、サッカーに似たものも各地で行われていました。その後、現在のような競技として体系化されたのは 19 世紀のイングランドであったと言われています。

特にヨーロッパにおけるサッカーは、地域の歴史に裏付けられたアイデンティティやナショナリズムを高揚させるスポーツとして、人気を博し、最も人気の高いスポーツとして世界中の人から親しまれています。

日本国内におけるサッカーの普及

日本にサッカーが紹介されたのは、明治期に入ってからのことで、学校教育の一環として取り組まれるようになりました。

日本の場合、プロスポーツやオリンピックなどトップスポーツの振興は、長年、企業が担ってきましたが、スポーツの強化策が企業の業績に左右されるなど、問題点も指摘されてきました。

こうした現状に新たな可能性を示したのが、1993 年のＪリーグの開幕でした。Ｊリーグが地域密着のクラブ運営を成功させたことによって、これが一つのビジネスモデルとなり、バレーボールやバスケットボールなど、他のスポーツがプロ化するきっかけとなりました。

また、現在Ｊリーグに加盟するクラブ数も増加し、着実に成長すると共に海外リーグで活躍する日本人選手の姿は、多くの人に夢と希望を与えています。

沖縄県におけるサッカーの位置づけ

沖縄県はすでに多くのスポーツ合宿の開催地として選択され、観光ボトム期である冬季の誘客に効果を発揮しています。しかし、サッカーについては受け入れ可能な施設が少なく、ニーズに十分応えられていないことが問題となっていました。

また、サッカーはワールドカップの例が顕著なように、ツーリズムを誘発する効果の高いスポーツです。沖縄県のサッカーの魅力を高めることで、他地域のサポーターなど、多くの誘客が期待できます。

沖縄の将来のあるべき姿を描いた「沖縄 21 世紀ビジョン」においては、“希望と活力あふれる豊かな島”を実現するため、“スポーツアイランド”の実現が提言され、「スポーツアイランド沖縄形成プロジェクト」として、「国際試合など大規模なスポーツコンベンションに対応できる全天候型多目的施設」を整備することや「世界大会・プロスポーツイベント等の誘致・開催」が目標として示されています。

沖縄におけるサッカースタジアムのあり方

沖縄県におけるサッカーは“スポーツアイランド”を実現するための重要なコンテンツです。地元から愛されるチームが素晴らしいプレーを展開することで、人々の心をつなぎ、地域への貢献を増していきます。こうしたプレーの舞台となる沖縄県のサッカースタジアムのあり方を以下のとおり定めます。

地域の象徴となるサッカースタジアム

サッカースタジアムが存在することによって、**地域への誇りとアイデンティティ**が高揚します。また、**交流**が**活性化**し、**コミュニティ**が**醸成**されたり、スポーツに対する関心が高まり、県民の**健康**が**増進**されたりします。さらに新たな**来訪モチベーション**が高まり、**観光**が**振興**されると共に新たな経済効果が創出され、**地域経済**が**活性化**するなどの効果が期待されます。

沖縄におけるサッカースタジアム整備の基本方針

象徴としてあるべき姿を体現する

“地域の象徴となるサッカースタジアム”は様々な分野への波及効果が期待され、地域に良い影響を与える存在でなければなりません。多くの人が訪れ、沖縄のより良いイメージを発信する存在として、あるべき姿を体現します。

質の高いスタジアム

地域への波及効果を創出するスタジアムですが、「選手がプレーする」、「観客が試合を見る」という基本的な機能は、当然有していなければならない性能と認識しています。「選手が怪我を恐れず全力でプレーできる」、「観客が臨場感を持って快適に観戦できる」など、質の高いスタジアムを目指します。

自立運営を可能とする運営体制

国内・国外を問わず、多くの大型スポーツ施設は、競技機能を維持する必要があり、さらに大型であるが故に利用を限定してしまい、収益で管理費を捻出できない施設がほとんどです。このため、整備後の自立運営を可能とする収益確保の取り組みを検討します。

スタジアムの多目的利用と複合施設

スタジアムのような大型スポーツ施設は、収益で管理費を捻出できていない施設がほとんどです。このため、国内外を問わず大規模なコンサート等で利用率を高め、収益を確保しようとしていますが、芝の養生等の課題から、思うように利用率を上げられていないのが現状です。

こうした芝の問題について、本調査の中で２つの手法に可能性があることがわかりました。

フィールドを使った多目的利用の可能性

フィールド移動タイプ	芝生張替えタイプ
アレナ・アウフシャルケでは可動フィールドを外に搬出し、コンクリートを表出した上で、イベント等に利用しています。	**トヨタスタジアム**ではシーズンオフに最小限の養生でイベント利用し、シーズン前に芝を全て張替えることで、多目的利用を実現しています。

こうした手法によって、芝の養生の問題は解決できますが、それぞれコストが大きいという問題点があります。このため、もう一つの可能性としては、スタジアムとは全く関係のないビジネスを複合的に整備し、収益を確保している事例が成功を収めていました。

こうした複合施設の可能性を次項に検討します。

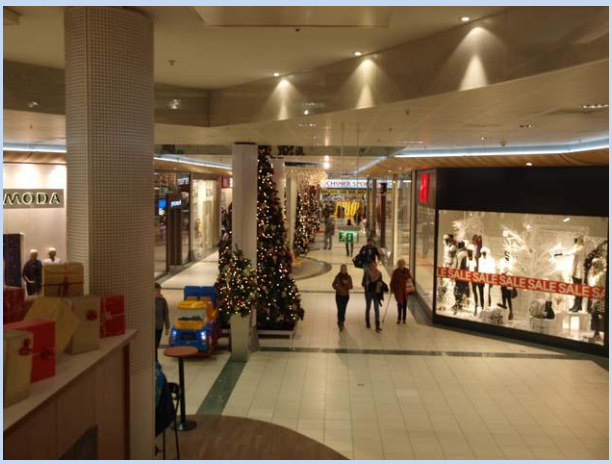
複合施設による多目的利用の可能性

ヨーロッパにおけるサッカースタジアムは、地域の象徴として大きな集客力があり、さまざまなビジネスチャンスが広がっています。本調査におけるヨーロッパのスタジアムのうち、代表的・特徴的なものを以下に抽出します。

リコーアリーナ(イングランド)

多くの複合施設を有する施設であり、1 万人規模の**ホール**や**ホテル**、**フィットネスクラブ**、**カジノ**、**レストラン**等が複合しています。

ザンクト・ヤコブ・パルク(スイス)

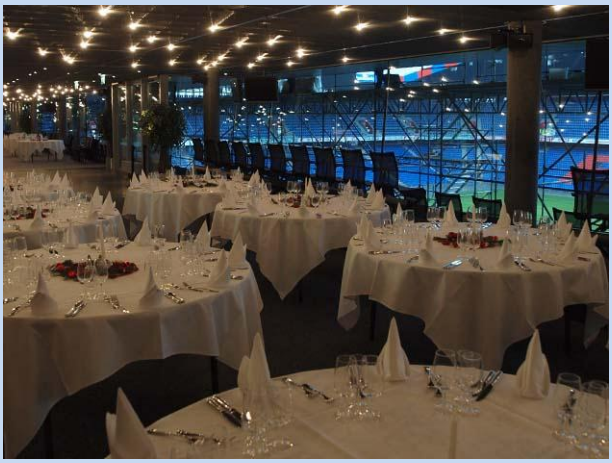


ショッピングセンターが地下にあり、他に**オフィスビル**や**老人ホーム**が併設されています。特に老人ホームは人気の高い施設です。

グラン・スタッド・メトロポール(フランス)

ホテルや**住居**を建設する予定があり、また、フィールドを移動することで、ヨーロッパ最大の**アリーナ**としても利用できます。

その他多くのスタジアム



ヨーロッパのスタジアムの多くは **VIP ルーム**、**ビジネスラウンジ**があり、日常的に**会議**や**パーティ会場**等として活用しています。

複合機能抽出の基本方針

- スタジアムと併設しうる機能で、**スタジアムの機能を損なわない**もの。
- 地域の社会条件を鑑み、**地域が必要**としている機能。
- スタジアムと**相乗効果**を発揮し、複合機能の**運営にも良い影響**を与えるもの。
- 社会貢献に寄与し、スタジアムの**地域でのイメージを高める**もの。
- 複合機能自体の**自立的な運営**が可能なもの。

沖縄のスタジアムにおける複合施設の可能性

交通交流拠点併設型	新都市形成型
■観光産業は沖縄県にとって重要な位置づけがあり、その支援機能と複合したのがこのタイプです。 ■各交通手段のターミナル機能とその待ち時間を快適に過ごせるアメニティ機能が想定されます。 ■年間を通じた平準な利用があり、サッカーと利用が重ならないことが利点です。	■ショッピングセンターもサッカースタジアムも集客施設であり、立地や交通条件など類似点の多い施設です。 ■近年のショッピングセンターは映画館や飲食店など特定のテーマを持って、誰もが楽しめる機能が集積され、あたかも街を形成しているようであることから、この名称としました。
リゾート複合型	**ヘルスツーリズム誘発型**
■海外からの観光客も誘客しうる統合型リゾートを併設したのが、このタイプです。 ■大規模なMICE需要を吸収しうるアリーナや質の高いリゾートホテル、アミューズメント施設等が整備され、その一つがスタジアムという位置づけになります。	■サッカーを核として、総合的なスポーツの拠点を目指すのがこのタイプです。 ■トップアスリートを含めた合宿の支援施設や、健康医療をテーマとしたツーリズムに利用されると共に地域住民の健康づくりにも寄与します。

沖縄県におけるサッカースタジアムの機能設定

スタジアム機能

競技機能、選手関連機能、運営進行機能、メディア関連機能、観戦機能、ＶＩＰ対応機能等、スタジアムに必要な機能を導入します。異なる利用者が交差しないよう動線計画、機能配置に留意します。

この中で、収容人数はコストや使い勝手に与える影響が大きいため、特に慎重に設定します。

本調査においては、４万人規模が理想的であると判断されましたが、敷地条件やコスト等を勘案し、現実的な規模を検討することになります。

スタジアムの規模

１万人収容	J2 基準(J リーグ)
1.5 万人収容	J1 基準(J リーグ)、J2 標準(JFA)
２万人収容	J1 標準(JFA)
2.5 万人収容	オリンピック代表戦(実績値)
３万人収容	
3.5 万人収容	J1 基準(J リーグ 2020 案)
４万人収容	日本代表戦・ワールドカップ(JFA)

地域貢献機能

〔防災関連機能〕

スポーツ施設は、大規模な集客機能であり、防災施設として利用することも可能です。スタジアムには大空間があり、多くの人が避難することができ、また、十分な備蓄倉庫を確保することが可能です。また、トイレやシャワー室の数も多く、さらにＶＩＰラウンジの厨房等で温かい食事を提供することもできます。

整備される地域の防災計画と連携を図り適切な防災施設を整備します。

〔環境保全機能〕

スタジアムは電気をはじめとする多大なエネルギーを消費する施設であり、地域からの理解を得るため、環境保全機能の導入が必要です。検討される環境保全機能としては、「太陽光発電」や「風力発電」、「雨水利用」等が挙げられます。

多目的利用機能

〔大規模MICE機能〕

サッカーでの利用は年間 20 試合程度であり、利用料収入で管理費を確保することができません。また、芝生のコンディションを保つため、無制限に利用を増やすことができないことも問題点です。

このような視点から、大規模な MICE を実現するためには、可動式の屋根と可動式のフィールドの整備が有効で、それらの施設を整備できない場合、芝の張替え方式が有効です。

スタジアムの集客機能を活用した大規模な MICE 利用を可能とする施設整備を検討します。

〔複合機能〕

サッカーの集客機能を生かした多目的利用を図るのが、大規模 MICE 機能であったのに対し、サッカーとは関係のない機能を導入し、収益を確保するのが複合機能です。

スタジアムの象徴性や集客性を活用して、ビジネスを成功に導きやすいという特徴があります。本調査においては、「交通交流拠点併設型」、「新都市形成型」、「リゾート複合型」、「ヘルスツーリズム誘発型」の 4 タイプの可能性が検討されました。今後、敷地が選定され、各条件が決定していくことで、より具体化するものと考えられます。

今後の課題

敷地の選定

今後、スタジアムの整備を推進していくためには、敷地を選定することが必要です。スタジアムは多くの人が集まるため、交通利便性の高い場所にあることが重要です。また、スタジアム自体の規模が大きく、さらに外部に多くの人の集まる広場が必要なこと、場所によっては大規模な駐車場が必要となる可能性も高いことなど、一定規模以上の敷地を確保しなければ整備できません。

敷地によって整備できる施設の規模が決まり、また、複合施設の種類にも影響するため、詳細に施設内容を検討していくためには、敷地を選定することが喫緊の課題となります。

規模の設定

スタジアムにとって収容人数は、規模やコスト、利用内容に影響を与える要素であり、重要な検討事項です。規模が大きければ、国際大会など、より大きな試合を開催できますが、整備・維持管理のコストが大きくなることや、通常の利用で、閑散として盛り上がりに欠けるなどの問題も懸念されます。

利用目的や市場規模などを勘案し、適切な規模を検討する必要があります。

複合機能と事業手法

スタジアムはサッカー利用のため、芝のコンディションを維持する必要があり、無制限な利用ができないため利用収入では管理費を捻出できない施設がほとんどです。そのため、ヨーロッパでは複合機能によって、収益を確保している事例が多く存在していました。立地によって、可能となる複合機能は異なりますが、今後、各条件を勘案し、最適な機能を選定することが必要です。

また、収益事業は民間のノウハウを活用することで成功に導くことができます。“PFI”や“PPP”の活用など、適した事業手法を検討していくことも必要です。

多目的利用とアリーナの可能性

スタジアムの収益を確保するため、多目的利用や複合機能が重要ですが、スタジアムは規模が大きく、利用できるイベントを制限しているということも問題点の一つです。調査の中では、数万人規模のスタジアムよりも 1 万人程度のアリーナの方が、利用率が高いことがわかりました。この場合、スタジアムのフィールドや観客席を使用することはできないため、アリーナを併設するという整備内容になり、その可能性についても検討することが必要です。

スタジアム整備による波及効果のイメージ

多くの人が
注目する

多くの人が
集まる

まちづくりのシンボル
スタジアムは多くの人から注目され、地域から愛される存在として、まちづくりのシンボルに適しています。

スポーツ文化と観光の融合
サッカーは世界中で最も人気が高く、アウェイ・ツーリズムなど、新たな誘客を創出することができます。

多目的利用・自立運営
スタジアムの特性を生かした複合的な利用を実現し、試合のない時でも施設の稼働率を高めます。

県民が夢中になる夢の創出
選手の迫力あるプレーは多くの人に感動と夢と勇気を与え、応援する人の連帯感を高めます。

様々な分野への波及効果を誘導します。

エコアップ
☆自然エネルギーの活用など環境教育に寄与します。

人材育成
☆沖縄から世界へ、子供たちの挑戦する心を刺激します。

コミュニティの醸成
☆サッカーによって地域の連帯感が向上し、コミュニティが醸成されます。

健康増進
☆見る人のモチベーションを高めスポーツ実施率を高めます。

防災拠点
☆スタジアムは防災施設としても活用できます。

地域振興
☆スタジアムの熱気が地域を元気にします。

観光振興
☆アウェイ・ツーリズムなど入域観光客の増加に寄与します。

イメージ向上
☆まちのイメージが向上し、他地域に発信します。

まちづくりの核
☆集客力が高く、シンボルとして、まちづくりの核となります。

雇用創出
☆スタジアムと関連し、新たな雇用を創出します。

Jリーグ規格スタジアム整備基礎調査

発 行 日 平成 24 年3月

発　　行 沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課
沖縄県那覇市泉崎 1 丁目 2 番 2 号
ＴＥＬ　098-866-2708

調　　査 (株)国建・(株)ＪＴＢ沖縄・(株)電通沖縄共同企業体
沖縄県那覇市久茂地 1 丁目 2 番 20 号 OTV 国和プラザ
ＴＥＬ　098-862-1106(代表)

調査協力 ＦＣ琉球
沖縄県那覇市山下町 30-12 高良ビル 1F
ＴＥＬ　098-987-1619